



親子の触れ合い年長遠足

23日(月)爽やかな五月晴れに恵まれ、福岡城址の新緑の中を、年長さんは、親子で健やかな汗を流すことができました。4月の歓迎遠足が、残念ながら雨で中止になっただけに、子どもたちは大喜びです。後日に控えた油山登山の練習を兼ねた遠足ですから年長さん同士でしっかりと手を繋ぎ、舞鶴公園まで歩きました。さすがに年長さんです。きちんと2列を守り、歩き方も上手いので、昨年度よりも速く目的地に着くことができました。

子どもたちは、先に現地の舞鶴公園で待っていただいた保護者の皆様を見ると、それまでのやや緊張していた顔が、途端にほころび、甘えた笑顔になりました。

集合写真撮影の後、親子で仲良く食事をしたり、ダンスや親子レクリエーションに興じたりして、楽しい時間を過ごすことができました。特に、親子で背中を合わせてボールを運ぶゲームは、易しそうに見えますが、背丈の違いもあり、上手くボールを背中に挟めず、途中でボールがポロリとこぼれ落ち、悪戦苦闘する姿が見られました。

日頃から、親子の触れ合いを感じておられる皆さんも、親子で協力する

ことによって、親子の息のよさを確かめることができた遠足であったように思います。多くのお母さん方の中に、黒1点、いつも、らいおん組に参加してくださるお父さんの参加がありました。仕事の都合をつけて参加され、お子さんと楽しくダンスやボール運びに興じていただきました。ありがとうございました。

前日の日曜日が小学校の運動会で、この日は代休ということもあって、申し合わせたように兄姉の卒園児の参加もありました。在園児が親子レクリエーションで楽しんでいる間、卒園児と一緒に健やかな汗を流そうと鬼ごっこをしました。年甲斐もなく小学4～5年生なんかには負けないぞと懸命に走った結果、翌日、若干の筋肉痛を感じる私でした。小学生になると速いですね。勝てませんでした。卒園児が、こういう形で舞鶴公園を訪れ、園児に声を掛け、親しくしている光景を見るととても嬉しく思いました。

このことは、附属幼稚園がこれまで大切にしてきた伝統的な“よさ”に通じるものだと感じました。



手作りは、やはりうまい!



【年中団子づくり】

自然環境を生かした教育の一環として取り組んでいるよもぎ団子づくりです。年少さんは25日に、年中さんは、30日に、よもぎ団子づくりをしました。

年少さんは、身近なよもぎを使っの団子づくりを楽しむということに対し、年中さんは、よもぎについて調べたり、年長さんに翌日の油山登山を励ましたりする意味を込めて作ることをねらいとしています。

子どもたちは、身近に生えているよもぎが食べられるということに興味を持ち、団子づくりに精を出していました。先生の上手な掛け声で、子どもたちは「おいしい団子にな～れ、おいしい団子にな～れ」と声を合わせ、大きなボールの中ですよもぎと餅粉を混ぜ合わせていました。みんな、ビー玉くらいの大きさに上手に丸め、丸めた団子を大事に抱えて、台所へ運びました。「早くできないかな」「おいしくできるといいな」「いい匂いがしてきたぞ」と、楽しみにしてできあがり待ちました。果たしてお味は? 給食を残してはいけないという配慮で、数量に限りがありましたが、給食を食べ終えた後のおかわりが続出し、団子はどのクラスも完食。「甘くて美味しかった」「もっと食べた」という声に先生方も満足です。

年少さんの試食を見ていた年長さんが「私たちにはないの? 私たちも食べたーい。」という要望に応えた年中さんも大満足であったと思います。

さて、日本人の多くの方が、草団子やよもぎ餅、よもぎ団子を好み、あちこちで郷土のお土産となっています。では、どの位の方が、よもぎの葉をご存知でしょうか。よもぎは、キク科の植物で別名「餅草」と呼ばれるように、餅と結びつくために生まれてきたような名前です。よもぎの葉は、菊の葉とよく似ていますので、区別がつきにくいところがありますが、よもぎの葉の特徴は、葉の裏がうぶ毛のような白い繊維で覆われています。幼稚園の周辺に生えていますから、まだご存知ではない方は、ぜひこの機会にお確かめください。また、この機会に保護者の皆様もお子様と、よもぎ団子づくりに挑戦してみたいはいかがでしょうか。